

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32614

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12903

研究課題名（和文）アートネットワーク形成における「場所」の役割：不忍池と杭州西湖の事例から

研究課題名（英文）A Sociological Study of the Relationship between Place and Art Networks: Case Studies of Shinobazu Pond and West Lake

研究代表者

PAN Mengfei (PAN, Mengfei)

國學院大學・観光まちづくり学部・助教

研究者番号：40871231

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、明治期東京上野周辺と、神奈川県大磯町を主要な対象として、「場所」と「アート・ネットワーク」形成の関係を検証した。書簡、日記、伝記、地誌、地図類、公文書を手がかりに、社会学と批判的地理学分野において練り上げられた「場所」概念を使い、「地図作成」という行為がいかに、コミュニティとアイデンティティ形成に寄与したかを明らかにした。また、東京帝室博物館新館建築設計競技をまつわる言説（1930年代）を再考察し、制度的な場所に対するさまざまな思惑を突きつめた。「地図」、「博物館」といった「近代」を代表する事物を再考することを通じ、近代化過程の複雑性と、「芸術」の境界の曖昧性を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

芸術社会学、美術と文学を対象とした歴史研究、及び都市研究においては、場所と芸術生産の関係に注意が払われていない傾向が指摘できる。本研究は、明治期から昭和前期にかけて、事例研究を通して、「ものづくり」、「場所づくり」、さらに自己とコミュニティの形成、三者間の関連性を裏付けた。抽象的かつ欧米中心の社会学の概念に具体的な事例分析、「近代」に関して無頓着な傾向を示す地理学の理論に歴史的な検証を付け加え、これらの概念と理論の精緻化を試みた。また、一元に語られやすい「近代」の複数形、抵抗的でオルタナティブな場所を発見した。地域づくり（まちづくり）へ批判的な視座と実践につながることも期待できる。

研究成果の概要（英文）：This research examined the relationship between “place” and “art networks”, focusing on the Ueno area of Tokyo and Oiso in Kanagawa Prefecture during the Meiji period. It used the concept of “place” in the fields of sociology and critical geography and scrutinized letters, diaries, biographies, gazettes, maps, in order to elucidate how “map-mapping” contributed to the formation of community and identity. Another target was the architectural competition of new main building of the Tokyo Imperial Household Museum. It re-examined the discourse in the 1930s and explored the various thinkings and expectations towards this institutional place. By reconsidering “maps” and “museums” that represent and underpin modernity, this research achieved to demonstrate the complexity of the modernization process and the ambiguity of the boundary of “art”.

研究分野：社会学

キーワード：場所 地図学 歴史学 近代 芸術実践 コミュニティ研究 博物館学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究と関連する先行研究は、芸術社会学、美術と文学を対象とした歴史研究、及び文化空間を取扱う都市研究、この三つの領域に分けられる。芸術社会学は、制作・流通・消費を総体的に捉える「生産」過程に様々なひと、もの、グループと組織が参与し、これらのアクター間の協力・交渉・競争・闘争、すなわち「アート・ネットワーク」に焦点を当てている。ただし、普遍性の持つ理論化を目指しており、芸術生産がいかにローカルな文脈と関連しているか、物理的な「場所」がいかに媒介しているか、の二点は重点的に解析されてこなかった。一方、美術史・文学研究においては、作者と作品研究の中で、作家の制作場(制作拠点、教育経歴や社会的な環境)と表象空間(作品の中で描かれた場所)などの地理的な場所と結びつけて研究が行われている。但し、場所がいかに「アート・ネットワーク」と関係しているかは十分に解明されていない。また、都市研究においては、都市の中で文化芸術空間がいかに創出されたか、文化芸術が都市にどのような効果をもたらすか、について主に経済と政策の側面から考察が行われている。

本研究は、芸術の生成と「場所」との関係に注目し、社会学と地理学の諸概念を用い、近世から近代への連続性を認め、近世的な「儒詩書画」を含む多様な「芸術」ジャンル(工芸、美術、彫刻、文学、音楽、演劇など)を取扱う。国家と都市の近代化に伴って生じた「芸術」概念の近代化をトレースしながら、アート・ネットワーク形成における場所の持つ意味の変遷を浮き彫りにすることを目的とした。

新型コロナ禍の影響を受け、初年度は資料調査と海外渡航が困難になり、やむをえず当初の研究対象と調査方法を変更した。元の対象・不忍池と中国杭州西湖を、上野広域と神奈川県大磯町と設定した。理由は三つがある。まず、不忍池より広域の上野に目を配ることによって、近代芸術制度を代表する「上野の山」の意味、<制度=山>とのやりとりが観察できる。また、明治期以降、都市化されつつある上野と、日本初のリゾート地の一つとして発展しく大磯町を比較することによって、「都市部」と「近郊」の間の相違を突き詰めることができると考えた。最後に、明治期に上野エリアで活動した芸術関係者(例:旭玉山、町田平吉)は一時的に大磯を拠点としていた。それらの人物の軌跡を追うことを通して、日本における「アート・ネットワーク」と「場所」の関係という問いに、中心地・上野と、療養別荘地・大磯、両事例から解明した。

2. 研究の目的

本研究は下記の五つを目的として設定した。

- (1) 明治期から昭和初期にかけて、上野エリアと大磯において芸術生産と関わる人物たちは、どのような人が、どのように活動していたかを明らかにすること、
- (2) 彼ら彼女らの活動は、それぞれの場所との関連性を、社会学と地理学の理論と照らし合わせ、明確にすること、
- (3) 抽象的かつ欧米中心の社会学の概念に、具体的な非西洋の事例によって検証、
- (4) 地理学の理論に、「近代」と「近代性」に軸を置いた社会学的視座を導入、
- (5) それぞれの地で、「アート・ネットワーク」と「場所」の関係性の相違点と、「近代」との関係性を突き詰めること。

3. 研究の方法

書簡、日記、伝記、地誌、地図類、公文書、新聞雑誌などを分析し、関係人物の足跡と言説を辿り、彼ら彼女らの間の「ソーシャル・ネットワーク」、地理的实践、作られたものや場所に関するイメージを描き出す。そのうち、『東京下谷根岸及近傍圖』(根岸倶楽部 1901 年出版)、大磯の一連の鳥瞰図(1880 年代後半から 1900 初頭出版)、「東京帝室博物館新館建築設計競技」をまつわる言説(1930 年代)を主要な対象とし、東京—大磯、「地図制作」—「ミュージアム作り」、民間—制度、幾つの対照軸と座標系を作り、比較分析、理論との照らし合わせを行った。

4. 研究成果

具体的に、以下の研究成果を得られた。

- ① 旭玉山という明治・大正期の牙彫工芸家をまつわる書簡、新聞記事などの整理によって、彼の湯島時代と大磯時代の居住環境とソーシャル・ネットワークを復元した。
- ② 明治期、「儒詩書画」で活躍した人々が制作した上野絵図を分析し、彼らの「場所づくり」(Tuan 1977)、場所の感覚(Hummons 1992)との関連を示した。

- ③ 『東京下谷根岸及近傍圖』を分析し、「根岸」という場所が、根岸倶楽部という知識人グループによる「コミュニティ・マッピング」実践 (Perkins 2007) そのコミュニティの象徴性 (Cohen 1989) を示した。
- ④ 明治期中期～大正期にかけて、大磯の鳥瞰図、絵図、近代的地図、観光ガイドブックの整理と分析によって、「観光のまなざし」(Urry 2011) と近代的リゾート地の誕生との関連を示した。
- ⑤ 1930年代、「東京帝室博物館新館建築設計競技」関連の記録、建築誌上の言説を再考察し、上野の山の最も象徴的・政治的意味の持つ場所を鎮座する博物館に対する、建築家、建築・美術批評家らの思惑を突き詰めた。

上記関連の研究発表を 8 件 (国内での学会発表 2 件、海外での学会発表 6 件)、学術論文を 1 件公開した。現時点 (2024 年 6 月)

に関する原稿は学術論文にて査読中

に関する論文は、2025 年度 Bloomsbury 出版の書籍に収録される予定

に関する論文は、「『東京下谷根岸及近傍圖』—明治後期における『コミュニティ・マッピング』の象徴性」(Tōkyō Shitaya Negishi Oyobi Kinbō-zu and the Symbolism of Community Mapping in the Late Meiji Period) *Japan Review*、国際日本文化研究センター (37) pp. 123-150、2022 年 12 月にて、オープンアクセスで公開されている。

に関する論文は、「明治中期大磯における鳥瞰図と近代的リゾート誕生」(Pictorial Maps and the Rise of Modern Resort in Ōiso in the mid-Meiji Period) *Synergy* (Journal of the Department of Modern Languages and Business Communication, Faculty of International Business & Economics, the Bucharest University of Economic Studies)、2024 年 7 月に、オープンアクセスで公開予定

に関する論文「批評としての『アンビルト』: 前川國男の 1931 年東京帝室博物館案を再考する」(Unbuilt Architectural Criticism: Revaluating Maekawa Kunio's 1931 Museum Proposal)は、2024 年 9 月に Park Books Zurich 出版書籍に収録される予定である。

参考文献

- Anthony P. Cohen, (1985) 1989. *The Symbolic Construction of Community*. Routledge.
- Hummons, David M., 1992. "Community Attachment: Local Sentiment and Sense of Place," in I. Altman, S. M. Low (eds), *Place attachment*. New York: Plenum Press, pp. 253-278.
- Perkins, Chris, 2007. "Community Mapping," *The Cartographic Journal*, 44 (2), pp. 127-137.
- Tuan, Yi-fu, 1977. *Space and Place: The Perspective of Experience*. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Urry, John and Jonas Larsen, 2011. *The tourist gaze 3.0*. Los Angeles: SAGE.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 PAN Mengfei	4. 巻 37
2. 論文標題 Tokyo Shitaya Negishi Oyobi Kinbo-zu and the Symbolism of Community Mapping in the Late Meiji Period	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Review: Journal of the International Research Center for Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 123 ~ 150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15055/00007912	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 Sharing the Place of Origin as “Social Capital” : Artists and Their Dokyo Friends in Edo-Tokyo
3. 学会等名 48th Annual Conference 2022, Association for Art History (Online & in London) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 Mapping Art Networks, Making the Imagined City: Case Studies of Three Edo-Tokyo Maps
3. 学会等名 The Asian Studies Conference Japan
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 Mapping the Local Persona: Cartographic Directories in Meiji Japan
3. 学会等名 Mapping Asia: Cartography and the Construction of Territoriality, Centre for Transcultural Studies, University of Erfurt (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 The Birth of “Mura” (Villages) of Artists in Modern Japan: Towards a Socio-Geographic Theorizing of Art
3. 学会等名 Artists' colonies in the world / The world in artists' colonies, University of Melbourne (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 潘 夢斐 (Mengfei PAN)
2. 発表標題 東京の奥・根岸に住まうー 場所の象徴性をめぐって
3. 学会等名 カルチュラルスタディーズ学会2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 Localizing the Art Network: Towards a Rapprochement among Art History, Geography, and Sociology with a Case Study of Meiji Tokyo
3. 学会等名 The Making of the Humanities IX Conference, Pompeu Fabra University, Barcelona (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 Architecture as Un-Built Criticism: Revisiting Maekawa Kunio 's 1931 Museum Proposal
3. 学会等名 International Conference on Architecture as Built Criticism, International Committee of Architectural Critics and Tongji University (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mengfei Pan
2. 発表標題 Visualizing and Selling the Local Place: A Study of Three Oiso Maps in the Mid-Meiji Period (1880s-1890s)
3. 学会等名 "Japan: Pre-Modern, Modern, Contemporary", Bucharest University of Economic Studies, Center for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関